



12 還城楽 1点 森川杜園

木彫、彩色 明治26年(1893)  
20.5 × 21.5 × 29.5

還城楽の一場面、蛇を見つけて喜び舞う舞人の姿をとらえた作品。作者の森川杜園(1820～94)は、奈良に生まれ、幼少より絵や彫刻に秀で、奈良人形で知られる一刀彫の優れた作品を数多く制作した。春日大社からは春日有職奈良人形師という彫刻師としての職分の称号を与えられている。また、自ら狂言を演じ、能や狂言、舞楽に関わる作品を多く手がけた。その表現は舞の内容、所作、装束などに関する確かな知識に裏付けられたものである。本作は宮内省の依頼を受けて制作され、杜園晩年の明治26年に納められた。その後、大正天皇の御遺品として貞明皇后が引き継がれ、昭和10年に秩父宮家に譲られた。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に<sup>1</sup>出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

雅楽―伝統とその意匠美

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 37

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十七年四月十六日発行

©2005, The Museum of the Imperial Collections